

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

発行者：亀田 泰武

編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当

〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1

URL <http://www.21water.jp/>

E-mail info1@21water.jp

第36号 2014年12月26日号

都会と田舎

理事 昆 久雄

もうすぐ2014年も終わります。皆様の当「21世紀水倶楽部」へのご協力感謝申し上げます。今後も更なる発展を目指し、様々な活動を進める予定でございます。

私事でございますが、今年で67歳を迎え、自分の健康管理に気を使う年頃になりました。そんな中最近特に思うことは、いつかはもっと自然豊かな田舎暮らしをするかどうかです。私は、これまで栃木県宇都宮市に生まれ、高校卒業まで比較的地方都市ののんびりした環境で育ちました。大学に入り、埼玉県浦和市で学び、東京で就職し、それから、名古屋市、大阪市(住まいは吹田市など)に転勤し、定年と同時に現在の埼玉県和光市に移り、現在に至っています。この間、住まいはできるだけ自然が身近な環境を選んできたつもりです。



これからの日本を考えた場合、最も大きな問題の一つとして、少子高齢化問題と都市と地方の格差特に過疎の拡大があります。確かに、田舎に比べ都市の方が、交通や医療などの利便性、雇用機会が多い、娯楽施設や遊び場が多い、人との煩わしい付き合いがない等の面で優位性があります。一方、田舎は空気がきれいなどの自然の豊かさ、物価が安い、人とのコミュニケーションが密である、畑を耕すなど、自給自足に近い生活が出来る等の利点があります。

こうした点を鑑み、先に示した問題点の解決策として、都市の田舎化、田舎の都市化を提案します。地球温暖化を踏まえた都市内の緑地・水辺空間の拡大、行政・企業機能の地方への分散、情報化社会の機会均等の拡大、子育て・教育施設の制度拡充と全国平均化、農業自給率を高める新たなシステムの推進などです。こ

れらの施策を、真剣にかつ総合的・効率的に進める必要があります。これを達成するキーワードとして、行政・企業・社会の異業種間のコラボレーションが大切です。私は、コンサルタントの一員として携わって来ましたが、若い頃の夢として、歳を取ったら自然環境の良い処理場で、その土地に沿った研究開発をしたいというものがありませんでした。下水処理場、浄水場、ごみ処理場と大学等がコラボし研究所を開設することです。企業と農家とのコラボ、再生可能エネルギー拠点の拡大など、知恵を絞ればいろいろあると思います。とにかく既成の概念を捨てることです。

新年にあたり、こんなことを考えました。皆さんいかがでしょう。

最後に、2月6日に行われる研究集会への参加を期待します。

2014年度活動報告

研究集会「病原性微生物研究の今」報告

一活性汚泥法誕生百年記念研究集会－2－

理事長 亀田泰武

11月7日(金)14時より水道会館会議室で開催し、会員、行政機関や研究機関の職員、コンサルタント社員など約50名の参加を得た。

この企画は、活性汚泥誕生百年記念行事の一環として実施したものの。19世紀末衛生状態が良くないまま人口の大都市集中がはじまった欧州で、感染症が大流行し、それが上下水道の整備促進の原動力となった。今回第一線で活躍されている研究者の方々に、上下水道整備の原点となった、感染症について、研究の状況、課題などを講演いただいた。

講演の最初は国立感染症研究所村山分室ウイルス第二部宇田川悦子主任研究官で、腸管系感染症研究の最前線というタイトルで、あちこちで感染騒ぎを起こしているノロウイルスの中心にお話いただいた。ノロウイルスは人の体内でしか繁殖しないので検査が非常に難しいこと。細胞膜と遺伝子だけの構成な



のでいつまでも生き続けることができること。増殖の速度が速いこと。症状はひどいが、死亡率は非常に低いこと、カキは水中の有機物をこしとって食べるため、結果的にノロウイルスも取り込んでしまうことなど。

次に、東京大学大学院 都市環境工学大講座片山浩之准教授に「下水処理と病原微生物」というタイトルで講演いただいた。お台場の汚染度は降雨のあと二桁くらい上昇して数日かかって下がり、これは合流式下水道雨天時越流水によるもの。越流水で欧米では汚濁よりも病原微生物の流出の方が問題視されていること。下水処理場では高度に除去されていること。下水処理場流入水の病原微生物の濃度を計測することにより、感染症の広がりやワクチンの効果など基礎情報を解析できる可能性があること。雨天時越流水のポリ鉄による凝集沈殿と塩素消毒について研究中で、この組み合わせで塩素消毒ではあまり効果が見込めない、ウイルスも除去することができることなど。

その後質疑に移り、熱心な質問が相次ぎ、懇親会でも話題が尽きることがなかった。

病原微生物の研究集会企画は2005年に次ぎ2回目になります。我が国ではこれまで有機物や栄養塩類などのことが水質改善課題の中心でしたが、お台場の汚染問題など、上下水道整備促進の原点であった病原微生物感染問題が現在再び大きくなってきていることを実感する機会となりました。

報告書はこちら

会員だより

酔童感話24 犬も歩けば!! 萩丸参加は??

伊達萩丸

11月7日「研究集会：病原性微生物研究の今」に、萩丸はおよそ2年ぶりに参加した(^_^)。皆様方が私を覚えて下さり、

とても嬉しかったです。一番若い会員の癖、一番目立つからかもしれないが?

さて、現在はInternet等で、簡単に数多くの情報が入手出来、情報過多。だから本当に厳選された良い情報を、自分で選択する必要がある。従い、その道の最先端研究者の鋭い話を直接伺う事が、非常に重要と痛感した。なぜなら、あふれる情報の中で、関連分野の一流の人が厳選。「これがまさしく旬の極上な本物です!」と紹介。質疑応答では、どんなに的外れで簡単な質問でも、萩丸が分かる様に噛み砕いて教えてくれる。なにせ、その事象を数年以上研究しているのだから。

つまり膨大な情報の海の中から、極上の一滴を、自分が闇雲に選出せずとも、短期高効率効果的に勉強可能。自分が「情報の渦」から「煌く一粒の本物の情報」を延々と探さずに、約3時間の研修・質疑応答、その後の二次会でのオフレコ話が入手出来る。二次会での研究裏話も重要だ!

それに一人で勉強するより、参加者の各質問・意見を伺う事で、同じ問題も違った切り口が発見可能。読者各位は、「そんなの当たり前だろ!」と言われそうだが。久方ぶりに研究集会に参加し、研究集会での勉強の効率・必要性を痛感した。



ここで!この日突然起きた超重大事件!!

栗原秀人理事が当日「偶然?」発見した新聞記事のパネル!「昭和29年1月1日(金曜)創刊:日本水道新聞・第3面」。60年前の「全国下水道促進会議」の記事!萩丸は全然気づかなかった!紙面は「消化器系感染症の根を断て」「水源地の維持管理」「水禍!」…とまさしく、今も深刻な問題が既に大激論されていた事実。この件、当日実際に「日本水道会館」で水倶楽部研究集会に参加しないと出会わないし、さらに栗原理事が発見した所に居なければ、情報に接する事も無かった。

「犬も歩けば・・・」と言うが、今回「萩丸は研究集会に『久しぶりに』出向き」、「巨木」に大激突。もちろん、講演して頂いた宇田川・片山両先生のお話も大変勉強になった。

余談。記事をデジカメに納めたが、大失敗!消えてしまった(T_T)。泣きそう!!日本水道新聞社にお願ひし、記事を送って頂こうかと考えている。先方の了解次第で、「水倶楽部HP」に掲載したいです(^_^)。

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は昆理事の「都会と田舎」。日本のこれからの地方の過疎化問題。この解決方法をご自身の経験を踏まえて「新年を前に考え」られました。会員の皆様の新年への抱負は如何でしょうか？
- 11月7日の研究集会「病原性微生物研究の今」。報告文を亀田理事長からいただき掲載しました。この催しは「活性汚泥法誕生百年記念」としては二回目になります。ちなみに一回目は4月の「未来の下水道システムを探索する」（たより32号で既報告）でした。
- 会員だよりの連載もの、齋藤均会員は前記研究集会への参加記です。挿入写真は懇親会で皆様にふるまわれた「萩丸」ですね。東北大学で開発された日本酒です。
- 会員だよりのコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



モロッコ・カサブランカの大西洋（埋め草写真です）